

学校法人 城西大学 国際学術文化振興センター

JOSAI INTERNATIONAL CENTER

for the Promotion of Art and Science (JICPAS)

学校法人 城西大学
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26
☎03-6238-1300
http://www.josai.jp/

Newsletter

Newsletter for
International Exchange Activity
国際交流版

Josai University Corporation

3-26 Kioi-cho, Chiyoda-ku, Tokyo ☎03-6238-1300 http://www.josai.jp/

No.2



2006年1月11日(水)、東京紀尾井町キャンパスにて韓国の学校法人建陽学院との姉妹校提携の協定調印が執りおこなわれました。来学されたのは、学校法人建陽学院の金榮

韓国・学校法人建陽学院と姉妹校協定締結

日時..2006年1月11日(水)
場所..学校法人城西大学 東京紀尾井町キャンパス

Topics

建陽大学校からの交換留学生

日時：2006年4月11日(火)
場所：城西国際大学

去る4月11日(火)、韓国の建陽大学校より3名の交換留学生が来学しました。同大学校との姉妹校提携を1月11日に締結してから、わずか3ヵ月という短い準備期間での来学となったわけですが、空港に着いた3名は大変落ち着いた様子でした。それもそのはず、3名とも過去に2~3回来日しており、日本の空気には慣れ親しんでいるとのことでした。

城西国際大学で過ごす、これからの1年間の留学生活に対する豊富として、最年長者のジャン・セヒさんは「国際感覚を身につけて、将来は自分の事業を立ち上げることが目標」と言い、ジャン・ヒョンジュン君は「帰国後に後輩たちの良い先輩となるべく努力したい」と語り、そして最年少のチャ・ヒョンジュさんは「経営情報学を勉強し、世界を広く見られるようわき目も振らず留学生活をしたい」とそれぞれが目標を持っています。そして3名とも口をそろえて「日本人と一緒に仲良く勉強したい」と希望しています。この確固たる目標を持った3名の交換留学生の存在が、本学の学生たちに必ずや良い刺激になる事でしょう。



写真左よりチャさん、ジャンさん、ジャン君

伊(キム・ヨンイ)理事長、建陽大学金燻洙(キム・ヒス)総長、金英順(キム・ヨンシユン)国際交流部長のお三方でした。当日は、午前中に城西国際大学東金キャンパスの様々な施設を見学されたあと、東京紀尾井町キャンパスにいらつしました。



伊(キム・ヨンイ)理事長、建陽大学金燻洙(キム・ヒス)総長、金英順(キム・ヨンシユン)国際交流部長のお三方でした。当日は、午前中に城西国際大学東金キャンパスの様々な施設を見学されたあと、東京紀尾井町キャンパスにいらつしました。

1991年に設立された建陽大学は、韓国中部の論山市に位置しており、学生は約8000名が在籍しています。人文科学・社会科学・自然科学系の計40学科と大学院・大学病院を設置し、めざましい発展を遂げている総合大学です。

今回の協定締結により、城西大学および城西国際大学で実施しているJ.E.A.P留学をはじめとした様々な交流がおこなわれていきます。交流の先鋒として、2006年4月から建陽大学の交換留学生3名が城西国際大学に派遣されており、今後の更なる交流に大きな期待が持たれます。

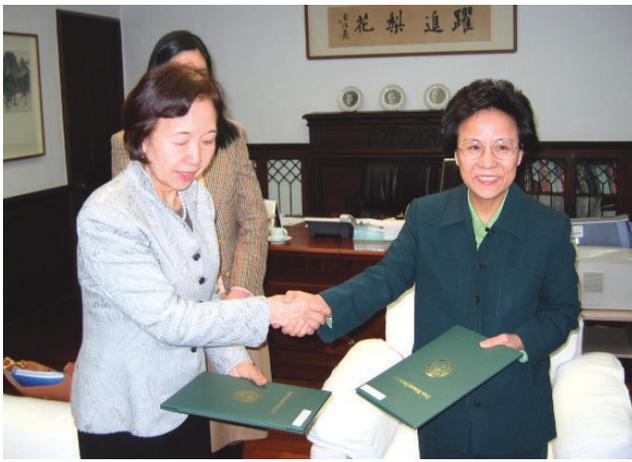
韓国・梨花女子大学と姉妹校協定締結

日時：平成18年1月17日（火）
場所：韓国・ソウル 梨花女子大学

平成18年1月17日、本学の水田宗子理事長が、韓国の梨花女子大学（Ewha Womans University）を訪問し、学校法人城西大学と梨花女子大学の間での学術交流協定を締結いたしました。

梨花女子大学は、1886年にアメリカ女性宣教師による私塾をその前身として、1925年に梨花専門大学として開校しました。韓国における同大の知名度や評価は非常に高く、世界的にも見ても最大規模の女子大学で、数多くの優秀な女性学研究者を輩出してきました。

水田理事長は、Dr. In-Ryung Shin総長や、



日韓女性学会議に参加いただいたDr. Piwha Chang大学院院長らと面会をして、今後に期待される様々な交流プログラムについての話し合いがおこなわれました。

今後は、城西大学および城西国際大学と梨花女子大学との間で、交換留学や共同研究などの様々な学術交流を、積極的におこなっていく予定になっています。



Topics

2006年9月より梨花女子大学へ交換留学生を派遣

城西国際大学大学院人文科学研究科比較文化専攻（博士後期過程）の石島亜由美さんが2006年9月に梨花女子大学へ交換留学する予定となっています。

同大学とは今年1月に姉妹校提携を締結したばかりで、石島さんが第1号の交換留学生となります。石島さんの交換留学を皮切りに、両大学間での活発な学術交流がおこなわれていく事でしょう。



石島亜由美さん

梨花女子大学創立120周年記念行事

日時：2006年5月30日（火）
場所：梨花女子大学

5月30日（火）、韓国梨花女子大学の創立120周年記念行事のため、城西国際大学副学長中島信一郎先生が学校法人城西大学水田宗子理事長代理として参加されました。中島副学長は、梨花女子大学シン・インリョウ総長に学校法人城西大学水田宗子理事長の親書とお土産をお渡しし、お祝いの言葉を交わしました。

その後、同校の国際教育院イ・セギョン院長と面談を行い、今年9月から1年間交換留学生として派遣されることになった石島亜由美さんの研究計画書をお渡しして、ご指導をお願いしました。



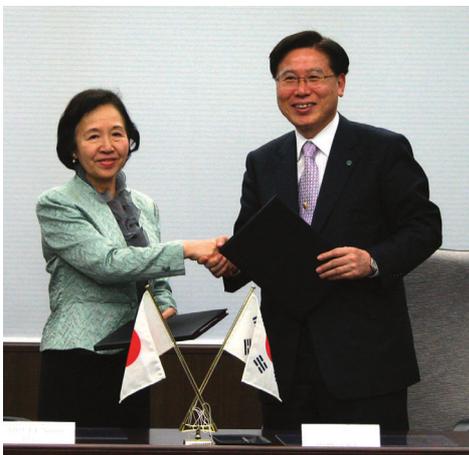
中島副学長（右）とシン総長（左）

学校法人城西大学・韓国外国語大学と学術交流協定締結

日時：2006年4月25日（火）
場所：学校法人城西大学 東京紀尾井町キャンパス

2006年4月25日（火）、東京紀尾井町キャンパスにて、韓国外国語大学総長朴哲先生、対外協力処長権錫均先生、韓国語研修評価院長許龍先生をお迎えして、学術交流協定を締結しました。

1954年に設立された韓国外国語大学は、ソウル市内の東側に位置し、世界の主要言語39ヶ国語の外国語教育とともに経済、経営、法学、理工の各分野を有する総合大学です。また、付属機関である韓国語研修評価院（韓国語文化教育センター）では、外国人に対して韓国語教育を積極的にこなっており、国際社会への韓国文化の発信にも力を入れています。





調印式では、学校法人城西大学水田宗子理事長から、総長就任間もない時期に韓国よりお越しいただいたお礼と、韓国分野に力をいれている城西大学および城西国際大学の説明がなされ、今後の学術交流がさらに実りがあるものとなりますようにとの挨拶がありました。

この日、朴総長は東京紀尾井町キャンパスにいらっしゃる前に、千葉県東金にある城西国際大学を訪問されました。朴総長は、城西国際大学が世界各国で自分が訪れた多数の大



高麗神社にて

学の中でも際立ってすばらしい印象に残る大学であったこと、ここなら自分の大学から多くの学生を送りたいと思います、とお言葉をいただきました。

さらに翌26日(水)には、埼玉県坂戸にある城西大学を訪問されました。学校法人城西大学の起源を知っていただく事ができたと思います。その後、城西大学の近くにあり、朝鮮半島とゆかりのある高麗神社を訪問されました。神主から、高句麗より移住して以来1300年、60代以上続く神社の説明を受けた朴総長から同大学留学生の見学コースにしてほしいとの要望をいただきました。

朴総長には、城西大学と城西国際大学両方のキャンパスをご覧いただき、本学について理解を深めていただけたと思います。そして今回の学術交流協定を機に、韓国外国語大学との活発な交流が行われる事が目に浮かびます。

英国・Bath Spa Universityとの学術協定締結

日時：2006年5月11日(木)、5月17日(水)
場所：学校法人城西大学 東京紀尾井町キャンパス

2006年5月11日(木)、

学校法人城西大学は、英国の国立・Bath Spa Universityとの間で学術交流協定を締結いたしました。



同大学は英国の南西部、バース市の郊外にあり1898年に創設の芸術専門学校が起源。現在は先進的な専門コースを多く有する総合大学として、その教育力や実学性で高い評価を得ています。

同大学はツアーリズムマネジメントコースを有しており、地元バース(世界遺産都市)をはじめ欧州各地の観光局やグローバル企業との提携関係を持ち、地勢・環境学をベースに観光分野に強い大学としても知られております。また語学教育でも長い経験を有しています。本学にとって、欧州ではバルセロナ自治大学に続いて2番目の学術交流提携校となります。

さらに5月17日(水)には、同大学の国際活動副代表のMs. Rosalind Daviesが来日され、城西国際大学の東金キャンパスおよび観光学部(安房キャンパス)に来学されました。観光学部では、学生たちがDaviesさんとお

会いする時間を設けて、直接言葉を交わす姿が見受けられました。その時の様子が5月18日(木)の読売新聞と東京新聞で紹介されています。

その後、東京紀尾井町キャンパスに来学されたDaviesさんは、水田宗子理事長をはじめ、城西大学および城西国際大学の教員と、



締結した学術交流協定について、英語で活発で幅広い意見交換がおこなわれました。

今後、同大
学とは、城西
大学および城
西国際大学と
の間で、交換
留学や学術共
同研究などの
様々な交流プ
ログラムを実
施してまいり
ます。



中国伝媒大学と日本語教育・メディア教育で連携

日時..2006年6月6日(火)

場所..城西国際大学 東京紀尾井町キャンパス

東金キャンパス

2006年6月6日(火)、中国伝媒大学より袁軍副学長、黄侃学務課長、徐琴媛国際伝播学院副院長、張智琦国際伝播学院副院長の4名が、城西国際大学に来学されました。

中国伝媒大学は、中国メディア界に多数の人材を輩出している実績を持つ名門大学であり、特に、中国のラジオやテレビ局で活躍している優秀なアナウンサー等を育成する高等教育機関としても知られています。



午前中は、城西国際大学の石田益美副学長や倉林真砂斗教授部長などと学生の受け入れ事情について情報交換を行い、また、メディア学部

と留学生別科とも具体的なプロセスについて打合せを行いました。その際、日本語教育及びメディア教育を中心とした学術交流についての「覚書」を交わしました。

会談後、同大学一行は東金キャンパスを見学されました。メディア学部の生中継ニュースを放送する授業等を興味深く参観していただきました。また、見学の途中にメディア学部の学生が学生記者として、同大学の袁副学長にインタビューをおこなう場面もありました。

と留学生別科とも具体的なプロセスについて打合せを行いました。その際、日本語教育及びメディア教育を中心とした学術交流についての「覚書」を交わしました。



午後、東京紀尾井町キャンパスへ移動して、本学の水田宗子理事長と面会しました。メディアの発展によるその影響から女性学、観光事業まで、具体的な内容を含め幅広く話し合いがなされました。本学と同大学が多くの共通点を持っていることに共感し、また将来に向けた共同教育研究や国際交流の可能性についても話し合いました。

両大学の交流の第一歩として、今年9月から1年間、国際伝播学院より18名の学生が来日し、メディア学部と留学生別科で受講することで合意しました。本学と中国伝媒大学の新たな国際教育プログラムの協定により、両大学のメディア分野での更なる発展が期待されます。また、2008年に開催される北京オリンピック



ピックにおいて、中国伝媒大学は、この放送に携わることになっており、本学との共同プロジェクトも検討されています。これにより、本学にとって中国での新たな国際教育の場が広がることになるでしょう。



アメリカ日本文学会 (AJLS) 第15回学会開催

日時..2006年7月1日(土)~2006年7月2日(日)

場所..城西国際大学 東京紀尾井町キャンパス

7月1日(土)~2日(日)、城西国際大学東京紀尾井町キャンパスにて、アメリカ日本文学会が開催されました。15回目となる記念すべき大会が、はじめてアメリカを出て日本で開催するということで、城西国際大学が会場校として引き受け、大会議長を理事長水田宗子、大会運営委員長を人文学部長三木紀人が務めました。

本学人文学部では、文学とともに、映像、



AJLS学会会員に加え、国内外のさまざまな研究機関に論文発表を募りましたところ、世界十数カ国1000人を超える応募がありました。厳正なる審査の結果選ばれた59名の発表者による熱のこもった研究発表が、4

アニメ、絵画などの視覚文化を通しての、文化表象の研究にも積極的に取り組む、メディア学部も併設する総合大学としての利点を最大限に生かしております。一方、今年度は、観光学部が開設された記念の年ということもあり、本大会のテーマを「表象文化と旅」といたしました。



プリンストン大学 清水義明教授



ヘルベルト・プルチョウ教授



分科会の様子
(インディアナ大学 スミエ・ジョーンズ教授)



小松左京先生トーク

つの会場を使ってなされました。研究発表の機会をいただいた本学大学院の院生たち3名にとりまして得がたい体験になったと思います。

基調講演には、プリンストン大学より日本美術史が御専門の清水義明教授をお招きし、「A Journey's tale and a Tale's journey: Studying Japanese narrative handscrolls abroad」をテーマに、御自分の人生を旅として振り返りつつ、絵巻物研究についてのお話をいただきました。また、本学メディア学部客員教授でもあります小松左京氏にも登壇

いただき、会場にあふれるほど多くの聴衆を前に、博覧強記の小松氏にふさわしい「人間にとって旅とは何か」をテーマに時空を超越して旅のトークを展開していただきました。そして、本学人文学部へルベルト・プルチョウ教授は「Some characteristics of pre-modern Japanese travel literature」をテーマに、主に江戸時代の紀行文について講演いたしました。これらの御講演には、集まった聴衆からも、非常に楽しく有意義でありましたとの感想が寄せられました。

発表者以外の各国からの学会参加者も120人を超える国際学会となり、1日目終了後のレセプションにおいても数多くの参加者が集い、なごやかに交流を深め、実り多い2日間となりました。

来年は、プリンストン大学が開催校となります。



2006年2月2日(木)、上海市甘泉外国語中学の劉国華校長と張婷外国語生部主任が、東京紀尾井町キャンパスを来訪しました。

上海市甘泉外国語中学は、中学部1200名、高等部1400名が在籍しており、その中で日本語を勉強している生徒が約1000名、英語と日本語の2ヶ国語を勉強している生徒が約300名と、日本語教育に重点を置いた学校です。また、国際交流にも積極的に取り組んでいます。

Topics

劉宇潔さんが本学にてインターンシップを実施

研修期間：2006年5月10日(水)～5月19日(金) 研修場所：東京紀尾井町キャンパス

甘泉外国語中学の劉校長のご息女で、立命館アジア太平洋大学に在籍中の劉宇潔さんが、2006年5月10日(水)より本学の紀尾井町キャンパスにて約2週間のインターンシップを行いました。

初日に、城西大学と城西国際大学の歴史や学部構成などを含めたガイダンス、翌日からは、教学事務室、情報センター、入試センター、図書館管理事務室で数日ごとに研修をしました。

2週間のインターンシップを終えた劉さんは、本学で学んだことから大学運営、特に留学生管理に関するいくつかのアイデアを報告書の中で提示するまでに至りました。

研修を終えた劉さんから、次のようなメッセージをいただきました。「今回のインターンシップに招いてくださった城西国際大学学長、水田宗子先生に心から感謝を申し上げます。このインターンシップは、私の人生の中でかけがえのない経験になりました。2週間、私をサポートと激励してくださったすべての人たちに感謝します。」(I would like to express my deepest gratitude to the president of Josai International University, Professor Noriko Mizuta, for her invitation of this internship. It has been an invaluable experience in my life. I am grateful to all the people that give me support and encouragement during the last two weeks. I will cherish the moments we shares together)



中国・上海市甘泉外国語中学 来学

日時：2006年2月2日(木)
場所：城西国際大学 東京紀尾井町キャンパス

東西大学交換留学生 フェアウェルパーティー

日時.. 2006年3月3日 12時50分~13時30分
場所.. 城西大学 坂戸キャンパス 教職員食堂

2005年9月8日(木)、韓国の東西大学より交換留学生2名が城西大学に来学しました。東西大学校日本語学科の朴景敏(パク・ギョミン)さんと徐志善(ソン・ジン)さんです。

朴さんは、高校の授業で日本語を履修したことがきっかけとなって、東西大学の日本語学科で日本語を学ぶようになったそうです。一方の徐さんは、中学・高校の頃に好きだっ



東西大学校 交換留学生
フェアウェルパーティー



パクさん(左)とソンさん(右)

た日本のマンガ、ドラマ、音楽がきっかけで日本語の勉強を始めて、さらに日本語の勉強をするために東西大学の日本語学科に入学したそうです。

本学では、2人とも経済学部の所属となりました。彼女たちは経済や経営について学ぶのは初めてで、最初は戸惑いもあったそうですが、授業に慣れて行くにしたがい経済や経営について少しずつ理解できるようになったそうです。

3月3日には、城西大学の教職員食堂にて、経済学部主催のフェアウェルパーティーが開催されました。パーティーには経済学部の教職員だけでなく経済学部の学生も参加してくれ、和やかな素晴らしいパーティーになりました。

パーティーの席では、彼女たちの授業を担

当した先生方から「非常に優秀で驚いた。これまで日本語が堪能だとは思わなかった。」と賞賛と驚きの声があがっていました。また学生と彼女たちが、楽しそうに会話をする姿も見受けられ、彼女たちの留学生活が実りあるものであったと改めて認識しました。最後に2人の夢を紹介したいと思います。

城西国際大学 J E A P 学生帰国報告

場所..城西国際大学

2006年3月と4月、2005年度に城西国際大学から派遣されたJ E A Pの学生達が、6ヶ月から1年間の留学期間を終了し、無事帰国しました。

2005年度には17名(カリフォルニア大学リバーサイド校(アメリカ)9名、セント・メアリーズ大学(カナダ)7名、カモーン・カレッジ(カナダ)1名)が派遣され、そのうち3月と4月に11名が帰国しました。

学生たちは、出発時の不安と期待の入り混じった複雑な表情とは全く違った、自信に満ちた顔で空港に現れました。

それぞれが留学先での様々な思い出話を聞かせてくれ、ホストファミリーや留学先でできた各国の友人達との交流がどんなに楽しかったか、留学によってどんなに自分に自信が持てるようになったかを語り、そして、必ず言うセリフが「帰国したくなかった、もっと留学していたかった」というものでした。

2006年度前期の派遣者は14名となっています。これから出発する学生達も帰国した時にはきっと同じ気持ちになっていることでしょう。一回り大きく成長し、国際的な感覚を身に付けて戻ってきてくれるのが、今から楽しみです。

まず朴さんの将来の夢は、日本語にこだわらない様々な分野で仕事をするのだそうです。一方の徐さんの将来の夢は、外国語関係の仕事で国際的に活躍して、さらに自分のお店を開くことを開くことだそうです。彼女たちの夢の実現に、本学での経験がきつと役立つことでしょう。



カナダ・カモーンカレッジにて

国際交流研修

日時…2006年3月10日(金)、
14日(火)、16日(木)、17日(金)
場所…国際連合大学



国際交流研修は、日本の国連機関、とりわけ国連の国際交流活動を直接見学して、そこで働く研究者や職員の活動を実体験することを目的としています。

今回は、国際連合大学を訪れ、国際連合からの要請があった諸問題を解決するためのデータの研究や、世界中からの専門家の思考など、また世界規模で環境保護の問題を考えている現場を体験し、地球環境問題について考えることのできる研修となりました。

福祉文化環境研修

日時…2006年3月5日(日)～3月13日(月)
場所…オーストラリア・シドニー



2006年3月5日(日)から13日(月)までの9日間、オーストラリア・シドニーにおいて福祉文化環境研修がおこなわれ、連日30度を越える暑さの中、精力的に施設見学をおこないました。

Bear Cottage (子供のためのホスピス)という、死期をまじかにひかえた子供が利用者である施設では、相手が子供でも「死」を隠すことなく、共に考える試みをしていました。当事者である子供の「死」を隠すよりも、死に行く体験を子供と家族、職員が分かち合うことが、子供にとっての深い関わりだとの考

えからだそうです。

The Spastic Centre (障害者のための自立生活施設)では、利用者である障害者の個室が、絵画やポスターなど個人の好みで色鮮やかに飾られており、「施設」とは全く感じさせないプライベートの尊重が垣間見られました。また施設運営者の説明には、障害をもつ利用者の方が音声機(ボタンを押して言葉を話す機械)を使って自分たちの意見を伝える場面もありました。

いずれもオーストラリアにおける施設利用者の位置付けが、治療対象としての患者(patient)から、異なる個性をもった利用者(client)として解釈し直された経緯が背景にあります。理念や解釈の違いが福祉の取り組み方に大きく影響することを実感し、「福祉文化」研修にふさわしい実りある旅となりました。

米国スベルマン大学・モアハウス大学の夏期プログラム

日時…2006年5月22日(月)～6月16日(金)
場所…城西国際大学 東金キャンパス

5月22日から6月16日までの約1ヶ月間、米国アトランタ市にあるスベルマン大学とモアハウス大学の8名の留学生が、城西国際大学東金キャンパスで日本語と日本文化について学ぶ夏期プログラムがおこなわれました。来日した時には英語でしかコミュニケーションができなかった留学生たちが、帰国する頃

には日本語で意思疎通できるまでになりました。彼らの熱心さと好奇心には非常に感動させられました。

留学生たちは、日本語の学習だけでなく、カンパセーション・パートナーや日本語メンターたちと日本語で会話やゲームを楽しんだり、ホームステイ先のホストファミリーたち





アクセス インフォメーション

- 地下鉄有楽町線 麹町駅 1番出口より徒歩3分
- 地下鉄南北線 永田町駅 9番出口より徒歩5分
- 地下鉄丸の内線・銀座線 赤坂見附駅 弁慶口より徒歩8分
- JR中央線・総武線 四谷駅より徒歩10分



と団練のときを過ごし、たりすることにより、日本語を練習する機会をたくさん持ちました。また、日本文化の授業では、日本の経済、教育制度、女性問題、文学、文化等、多くのことを学びました。また課外活動の時間には、着物の着付け、茶道、高校訪問、そば打ち見学等、日本文化を体験しました。

このように、留学生たちは言葉だけでなく多くの文化体験を通じて日本文化を学び帰国しました。



日本の学生たちとの交流



茶道を体験！



学校法人 城西大学

 城西大学 / 城西短期大学  城西国際大学

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26 TEL.03 (6238) 1300

学校法人 城西大学 <http://www.josai.jp/>

城西大学 <http://www.josai.ac.jp/> 城西国際大学 <http://www.jiu.ac.jp/>

学校法人 城西大学 国際学術文化振興センター

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26

TEL 03 (6238) 1300 FAX 03 (6238) 1299